

## 4 防災対策について

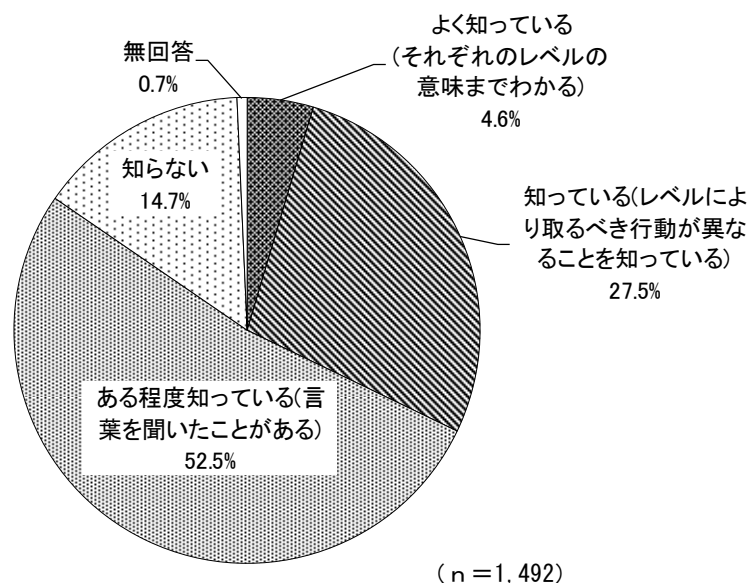
### (1) 避難情報（５段階の警戒レベル）の認知度

問11 あなたは、水害や土砂災害において避難するタイミングの目安となる「５段階の警戒レベル（高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保など）」を知っていますか。次の中から

１つ選んでください。

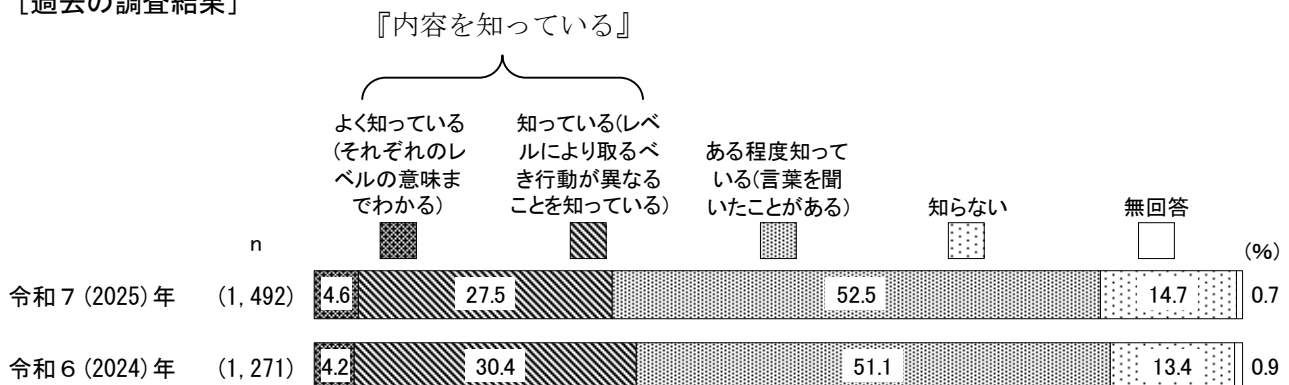
[n=1,492]

- |                                   |      |
|-----------------------------------|------|
| 1 よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）       | 4.6% |
| 2 知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている） | 27.5 |
| 3 ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）          | 52.5 |
| 4 知らない                            | 14.7 |
| （無回答）                             | 0.7  |



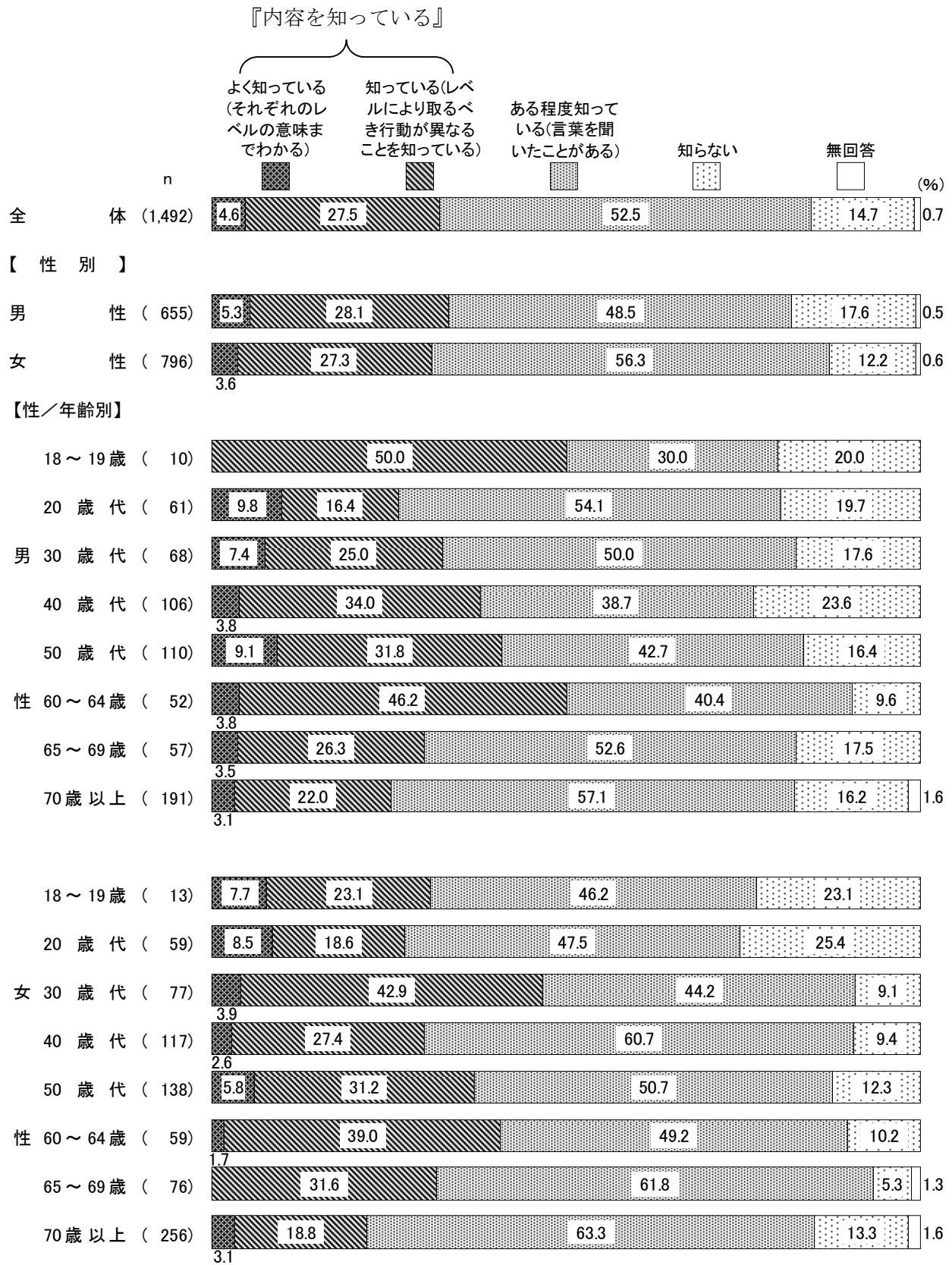
全体でみると、「ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）」（52.5％）が５割強、「よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）」（4.6％）と「知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている）」（27.5％）の２つを合わせた『内容を知っている』（32.1％）が３割強、「知らない」（14.7％）が１割半ば近くとなっている。

#### [過去の調査結果]



前回（令和 6 (2024) 年）の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

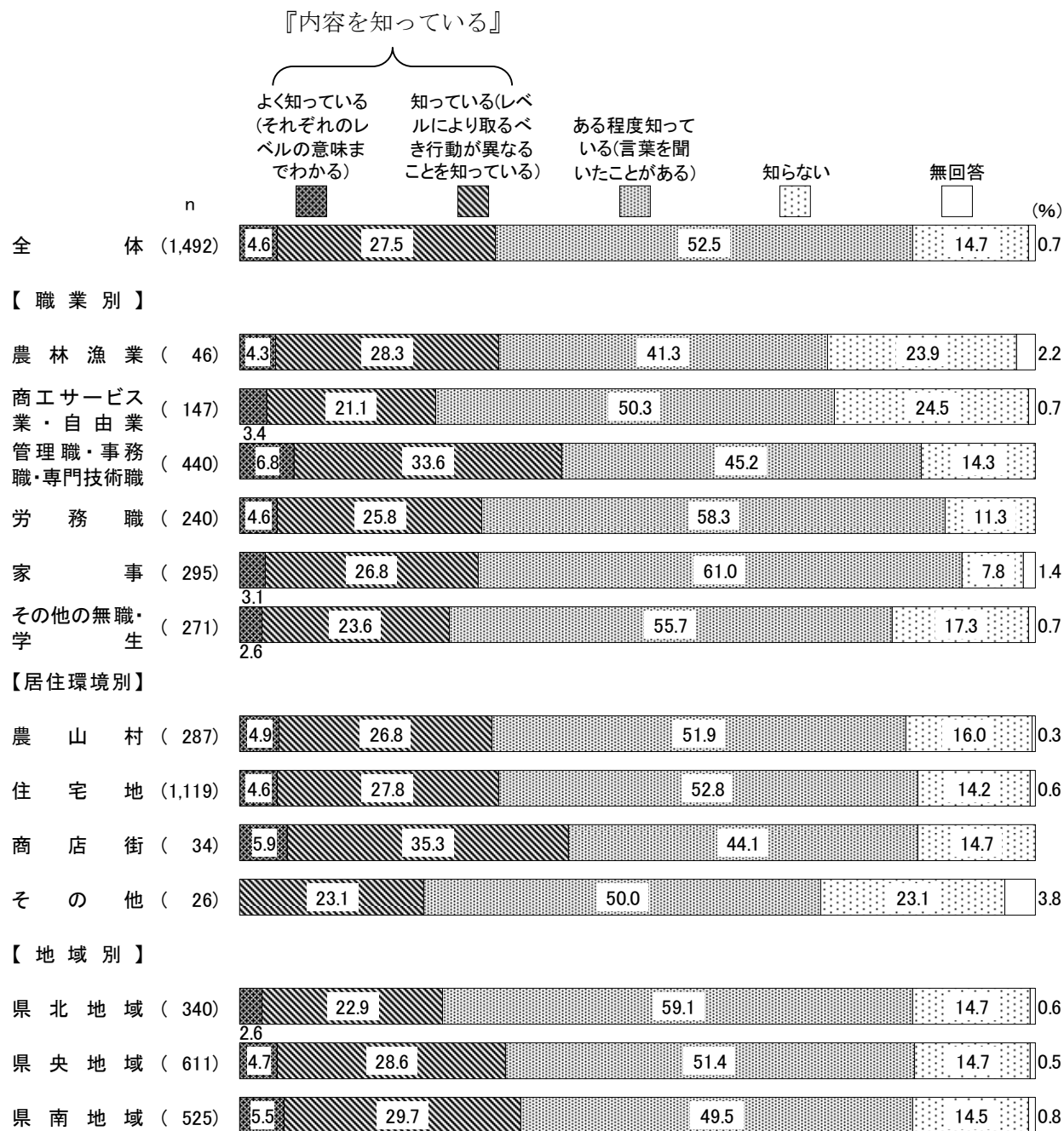
[性別・性／年齢別]



性別でみると、『内容を知っている』では〈男性〉(33.4%)が〈女性〉(30.9%)より2.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『内容を知っている』では〈男性60～64歳〉が50.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、『内容を知っている』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が40.4%と高くなっている。一方、「知らない」では〈商工サービス業・自由業〉が24.5%、〈農林漁業〉が23.9%と高くなっている。

居住環境別でみると、『内容を知っている』では〈商店街〉が41.2%と高くなっている。

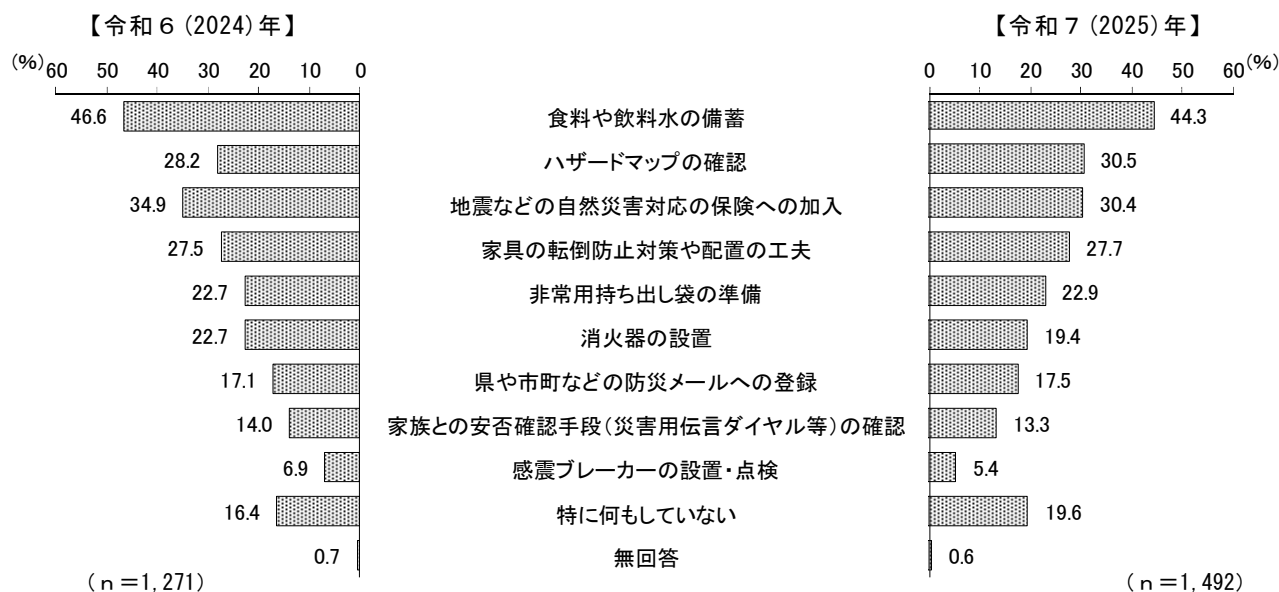
地域別でみると、『内容を知っている』では〈県南地域〉が35.2%と高くなっている。

## (2) 災害に対する備え

問12 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつかを選んでください。 [n=1,492]

1	家具の転倒防止対策や配置の工夫	27.7%
2	ハザードマップの確認	30.5
3	非常用持ち出し袋の準備	22.9
4	食料や飲料水の備蓄	44.3
5	消火器の設置	19.4
6	感震ブレーカー（※）の設置・点検	5.4
7	県や市町などの防災メールへの登録	17.5
8	地震などの自然災害対応の保険への加入	30.4
9	家族との安否確認手段（災害用伝言ダイヤル等）の確認	13.3
10	特に何もしていない	19.6
	（無回答）	0.6

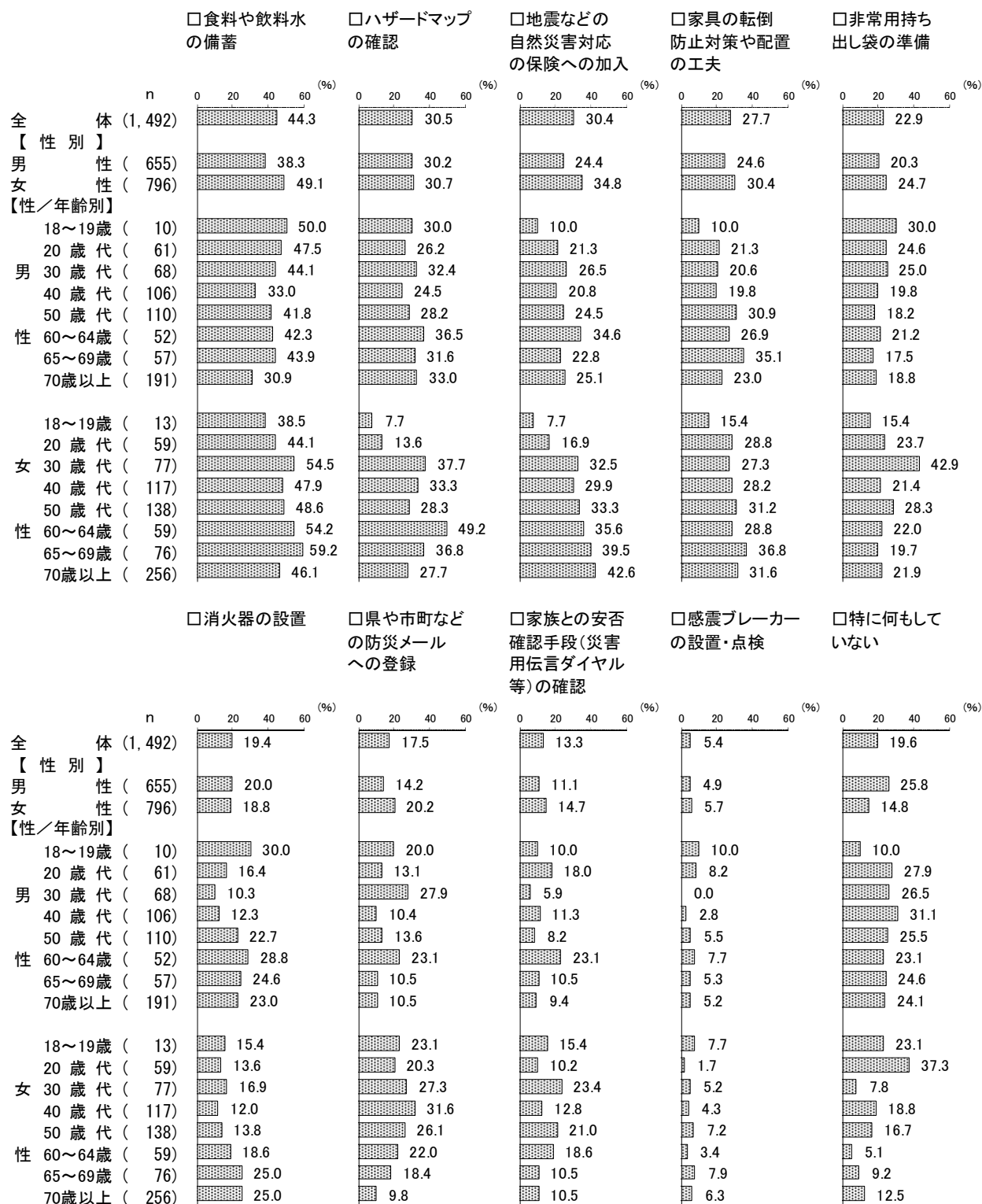
※ 感震ブレーカーとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に電力の供給を遮断する器具をいいます。



全体でみると、「食料や飲料水の備蓄」（44.3%）が4割台半ば近くで最も高く、次いで「ハザードマップの確認」（30.5%）、「地震などの自然災害対応の保険への加入」（30.4%）、「家具の転倒防止対策や配置の工夫」（27.7%）、「非常用持ち出し袋の準備」（22.9%）の順となっている。一方、「特に何もしていない」（19.6%）が2割弱となっている。

前回（令和 6 (2024) 年）の調査結果と比較すると、「地震などの自然災害対応の保険への加入」が4.5ポイント減少した。

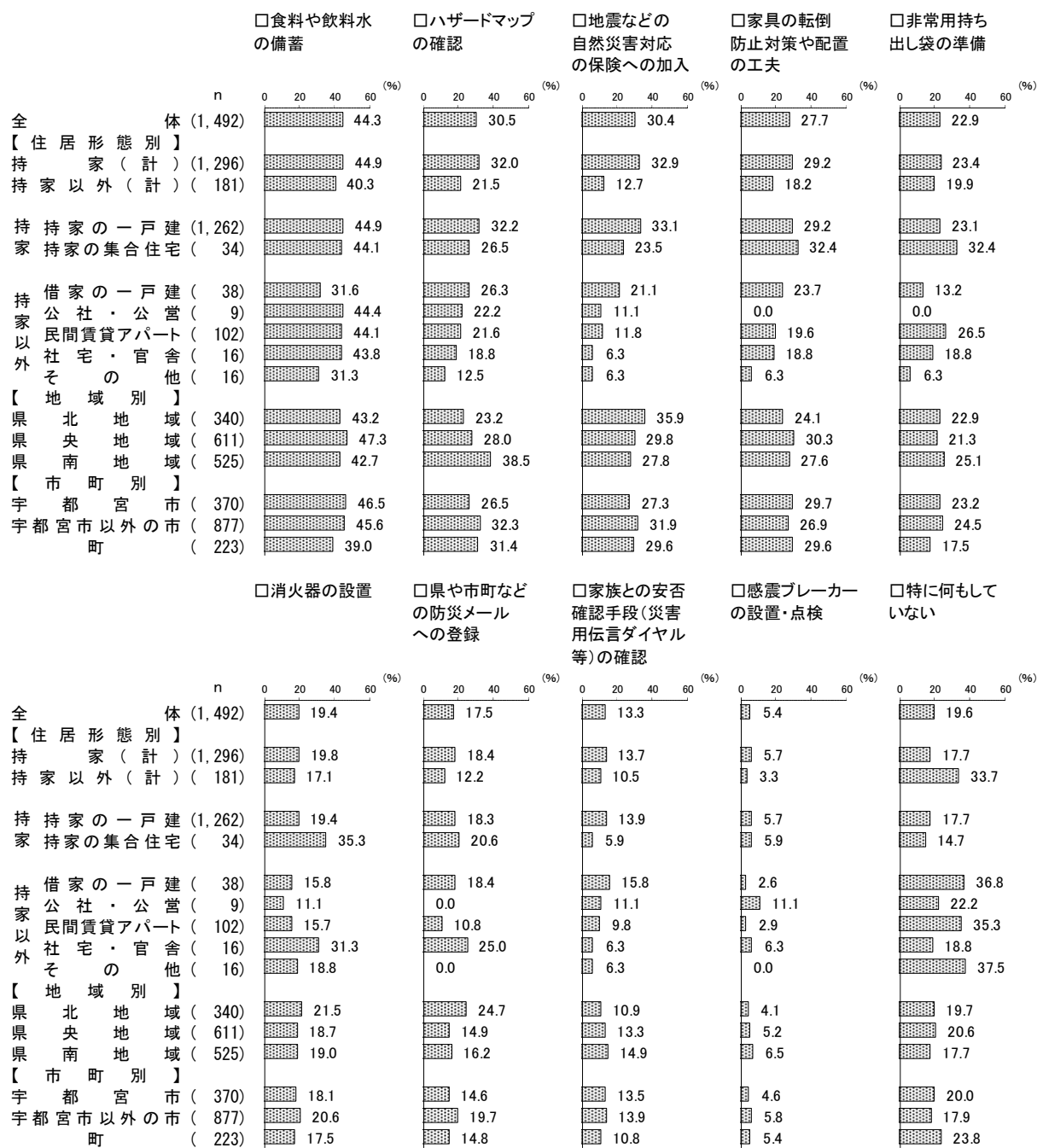
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「食料や飲料水の備蓄」では〈女性〉(49.1%)が〈男性〉(38.3%)より10.8ポイント高く、最も差が大きい項目となっている。また、「地震などの自然災害対応の保険への加入」では〈女性〉(34.8%)が〈男性〉(24.4%)より10.4ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「特に何もしていない」では〈男性〉(25.8%)が〈女性〉(14.8%)より11.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「食料や飲料水の備蓄」では〈女性65～69歳〉が59.2%と高くなっている。また、「感震ブレーカーの設置・点検」ではいずれの年代においても1割以下となっており、〈男性30歳代〉では0.0%となっている。

[住居形態別・地域別・市町別]



住居形態別でみると、「ハザードマップの確認」では〈持家(計)〉(32.0%)が〈持家以外(計)〉(21.5%)より10.5ポイント高くなっている。「地震などの自然災害対応の保険への加入」では〈持家(計)〉(32.9%)が〈持家以外(計)〉(12.7%)より20.2ポイント高くなっている。「家具の転倒防止対策や配置の工夫」では〈持家(計)〉(29.2%)が〈持家以外(計)〉(18.2%)より11.0ポイント高くなっている。一方、「特に何もしていない」では〈持家以外(計)〉(33.7%)が〈持家(計)〉(17.7%)より16.0ポイント高くなっている。

地域別でみると、「ハザードマップの確認」では〈県南地域〉が38.5%と高くなっている。「地震などの自然災害対応の保険への加入」では〈県北地域〉が35.9%と高くなっている。「県や市町などの防災メールへの登録」では〈県北地域〉が24.7%と高くなっている。

市町別でみると、「食料や飲料水の備蓄」では〈町〉が39.0%、「非常用持ち出し袋の準備」では〈町〉が17.5%と低くなっている。